

94 岡崎高師校長 水野敏雄 — 名大をひきいた人びと⑤ —

名古屋大学教育学部の前身にあたる岡崎高等師範学校（岡崎高師）の初代校長水野敏雄は、1893(明治26)年に東京市に生まれ、1911年に第一高等学校に入学、14(大正3)年には東京帝国大学文科大学（現在の東京大学文学部）哲学科に入学し、教育学を専攻しました。

卒業後、文部省に入省し、20年には山口高等学校教授、27年には東京女子高等師範学校（現在のお茶の水女子大学）教授となりました。37(昭和12)年には文部省にもどり、教学局指導部指導課長などを歴任、45年4月、新設の岡崎高師の校長に就任したのです。高等師範学校は、主に中等学校の教員を養成する学校です。

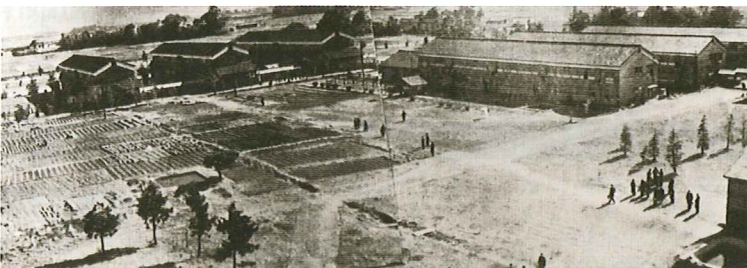
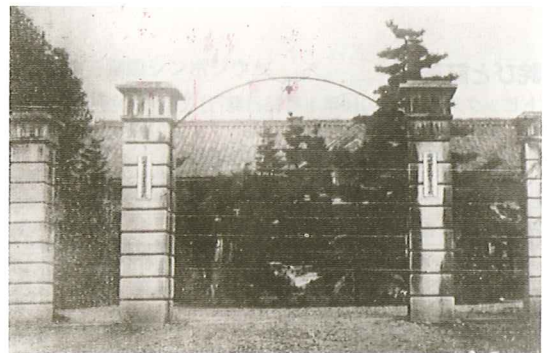
岡崎市の20年にわたる誘致運動が実り、念願の創設となった岡崎高師ですが、当時の状況は敗戦の4ヵ月前という最悪なものでした。したがって、水野校長の苦心も並大抵のものではありませんでした。

校地や校舎も市内の学校の転用であつたうえに、付属学

校は当面は仮の代用学校とされました。教員も、定員18名のところ、当初着任した教官は水野校長ほか3教授のみで、しだいに増加したものの定員を満たすことができませんでした。それでも第1回入試には入学志願者が殺到しますが、合格発表の直後に戦時教育令によって学業が事実上停止され、さらに7月20日の岡崎空襲により、校舎のほとんどが焼失してしまったのです。

敗戦後の復興は、まさにゼロからの出発となりました。水野校長は、仮校舎での学校経営のかたわら、本格的な移転先を模索しましたが、適当な校地や校舎が見つからず、岡崎市を離れ豊川市の旧豊川海軍工廠施設へ移転するという、苦渋の決断をせざるをえませんでした。

そして、新天地で本格的な学校経営に乗り出した矢先、いわゆる公職追放令によって、職を退かなければならなかったのです。その1年余りの任期は、まさに苦難に暮れたものともいえました。



- 1 水野敏雄（1893—1981）。水野校長は敗戦直後の岡崎高師の状況を、「孤立無援、微力ながらお互いの力の限りを出しあつて、開校勿々の難局を乗り越えようとする悲壮な気魄に溢れていた。」を回想している。1950(昭和25)年の公職追放解除後は、日本育英会理事、のちに理事長、島根大学学長を務めた。
- 2 豊川移転後の岡崎高等師範学校（現在は県立豊川工業高等学校）。
- 3 「岡崎高等師範学校跡」記念碑。碑文は水野敏雄初代校長によるもの。1980(昭和55)年に岡崎高師の同窓会「黎明会」によって建立された。かつて岡崎高師に隣接する学生寮「振風寮」があつた、現在の豊川市文化会館の前庭にある。また、そのすぐ隣には、岡崎高師（のち名大教育学部）附属中学校・高校の記念碑（1997年に同窓生が建立）が建っている。
- 4 岡崎時代の正門。

1	3	4
2		

名古屋大学基金

名古屋大学基金へのご寄附をお願い申し上げます。この基金は、平成18年3月に創設され、学生育英事業、教育・研究環境整備事業、国際交流事業などの充実のために活用されます。ご寄附のお申し込み、お問い合わせは秘書課（基金事務局）あて（電話 052-789-4993, 5759、Eメール kikin@post.jimu.nagoya-u.ac.jp）をお願いいたします。